

1.た・づ・な

人材養成の昨今



日本中央競馬会 競馬学校

校長 **和田 雅雄**

JRA 競馬学校は、1982年千葉県印旛郡白井町（現在は白井市）に設立され、来年25年目を迎えます。学校の教育目的は、JRAが施行する競馬の騎手を目指す者の養成と美浦および栗東トレーニングセンターにおいて、調教師のもと競走馬の飼養管理の補助および調教騎乗を行なうきゅう務員にふさわしい人材の養成です。

これまで学校が養成した人数は騎手課程194名、きゅう務員課程1,608名（6月末現在）で、武豊騎手をはじめとして東西で活躍する騎手など中央競馬を支える競馬関係者の養成機関としての役割を果たしています。

騎手課程の養成期間は、馬事公苑時代の2年から実践的訓練を強化した3年に改められ今日まで継続しています。近年、外国騎手や地方競馬の騎手の活躍で新人騎手にとっては、厳しい騎乗環境となっており、学校もそれに対応すべく工夫を凝らし生徒の技術向上に取り組んでいます。また、きゅう務員課程は学校設立に合わせて設置され、現在、原則6ヶ月で教育を行なっています。きゅう務員課程への入学希望者は多く、ここ数年の平均入学倍率は約6倍となっています。合格する人は社会人としての常識を身に付けていることはいまでもありませんが、乗馬や牧場経験を積む過程で、しっかり基本馬術（乗馬）に取り組んだ人に分があるようです。

学校設立当時の学校生活は全寮制の下、教育目的が異なる生徒を同一宿舎で生活させることにより発生する諸々の問題を考慮し、窮屈な生活規則が定められましたが、きゅう務員課程生徒にとっては、かえってストレスも溜まり教育効果を損なうことや、社会人としての自覚もあること等から宿舎の分離や外部居住制度（希望者）の導入、外出制限等を緩和し、それぞれの生徒が自己管理・自己責任のもと生活するように改められています。

騎手課程は年齢も若く、それぞれ育った家庭環境や個性の違い、また理解の仕方やでき方に違いがあるなか、3年間でプロ騎手としてまた社会人としての自覚や騎乗技術等を身につけなければならず、本人の強い意欲と弛みない努力が求められます。どんどん成長していく生徒は、素直なほど、心をオープンにできるほど騎手としての能力を伸ばしていくようです。

自分の子供の教育さえまならぬ昨今、他人の子供を預かり教育現場で真正面から生徒と向き合い技術面ばかりでなく生活面まで指導しプロ騎手として、社会人として育て上げていく教官の熱意と努力と苦労は今も昔も変わりません。

競馬学校は走路訓練馬を提供していただく馬主さんや、調教師をはじめとするきゅう舎関係者、学校の地元関係者、生徒の父兄など実に多くの理解者・協力者の方々のおかげで今日まで歩いてまいりました。今後も将来の中央競馬を支え国際社会の中で通用する人材を育てていくための要望はますます厳しいものになると思いますが、今後とも皆様のご理解・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

